

HOKKESHU SHINPOH



法華宗信報



▲大正14年
本宣寺 大火後 再興の本堂

昭和15年
▼本宣寺にて 託児所開所の日



天四海皆帰妙法 お題目總下種運動
咲かそう、いのち
奈良開創大聖人聖誕800年

平成30年テーマ

つむ
えん
紡ぐ田

- ご挨拶／法華宗管長 佐藤日賢猊下
- 大本山鷺山寺大本堂再建
- 寺院の歴史／本尊寺 本国寺
- コラム／私の住職日記

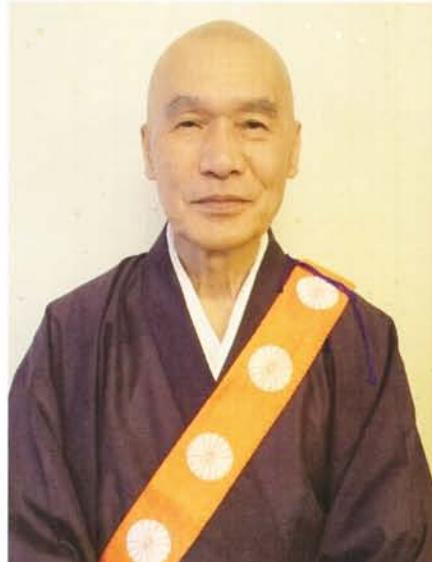
158

平成31年1月1日
発行 法華宗宗務院

ご挨拶

法華宗管長

佐藤日賢



明けましておめでとうございます。

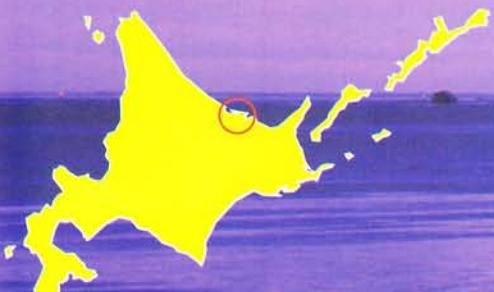
本年四月、現在の天皇陛下が退位され新しい天皇陛下が誕生し、三十年続いた「平成」が終わり新しい年号に代わります。この慶事を期として我々法華宗信徒は新しい年を迎える初心に帰り幸福の種まき、「御題目総下種運動」を展開し未開の原野を切り拓いて行こうではありませんか。

記念すべき良き年になるよう家族揃つて菩提寺にお参りしましょう。

鷺山寺は例年除夜に一年の無事を感謝して本堂で法要を行い山上の鐘楼で鐘を撞く。

元旦午前六時元三朝国祷会を奉修、続いて開山堂などを礼拝。次に八十五段の大階段を登り、山上の大本堂建立地に上がり歴代聖人の墓参を行う。更に一夏九旬の石碑まで登ること八十数段。東を向くと空が真赤に染まっている。初日の出を拝み本年も仏祖三宝の御加護を戴き所願成就なさしめ





▲オホーツクの夜明け（網走市）
あさじり



本堂に戻ると初詣の方がたくさん見えて
いる。祈願の順番を待つ方にお屠蘇を注ぐ。
最近は「運転をしてきたから頂けません」「子
どもだから頂けません」いう方が多い。当
方はお祖師様のお屠蘇を飲んでいただきた
いと思い、昨年か
らアルコール分を
飛ばしたお屠蘇を
用意した。「アル
コールが入つてな
いから安心して召
し上がり。」と声
を掛けると屠蘇器
の前もしばし行列
ができる。

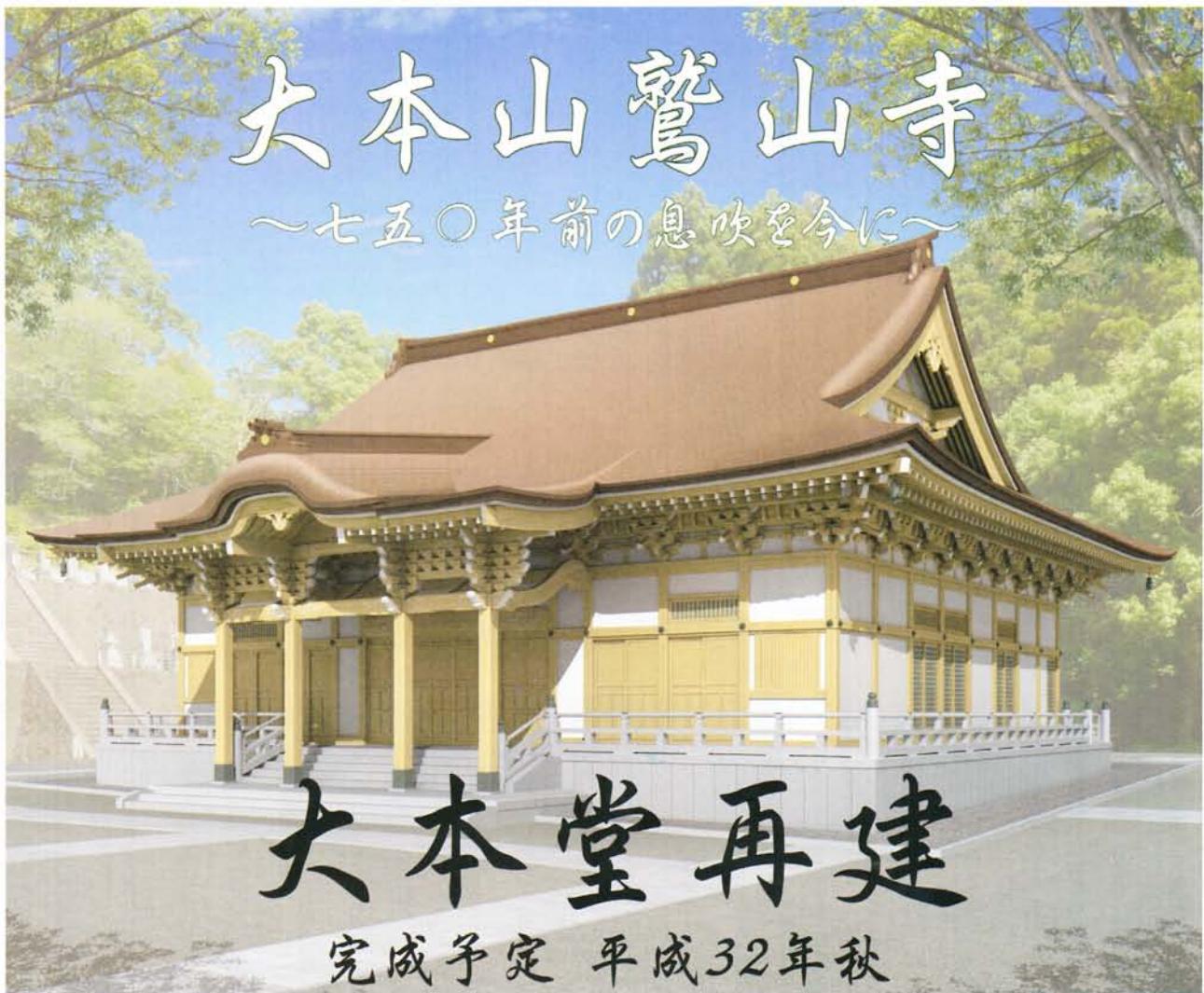
給え。と御題目を唱える。

本堂に戻ると初詣の方がたくさん見えて
いる。祈願の順番を待つ方にお屠蘇を注ぐ。
最近は「運転をしてきたから頂けません」「子
どもだから頂けません」いう方が多い。当
方はお祖師様のお屠蘇を飲んでいただきた
いと思い、昨年か
らアルコール分を
飛ばしたお屠蘇を
用意した。「アル
コールが入つてな
いから安心して召
し上がり。」と声
を掛けると屠蘇器
の前もしばし行列
ができる。



合掌

日蓮大聖人は『重須殿女房御返事』に十
字百枚、菓子一駕籠を頂いた御礼と法華經
に供養する功徳について、「月は山より出て
山を照らす。災いは口より出て身を破る。
幸いは心より出て我をかざる。今、正月の
はじめに法華經をご供養する心は良い果報
を得、法華經を信ずる人は幸いを広く集め
すればらしい功德を得る。」と説かれました。
本年が皆さまにとりまして、心豊かに無
事息災でありますよう心より祈念申し上げ
ます。



素晴らしい歴史・信仰を育てたのは
あなたのご先祖様です
これからのですばらしい未来を創るのは
あなたです

◎皆様へご寄付のお願い◎

大本堂再建円満成就の為に、一口1万円よりお願い致します
ご協賛賜りました方の記録は、志納簿にて永代に保存させて頂きます。

寄付振込先

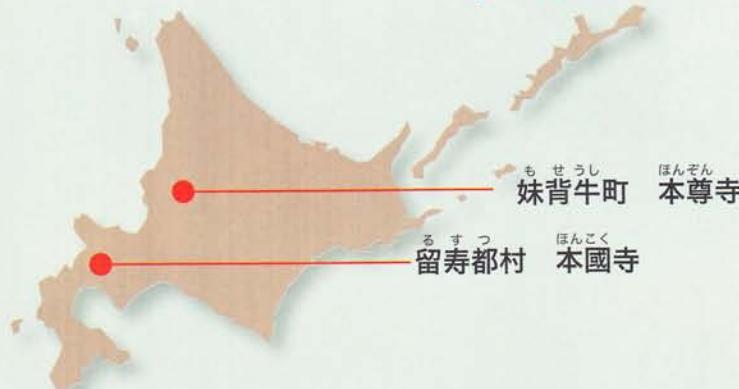
○郵便振替口座加入者名 大本山鷺山寺奉讚会
○口座番号 00190-8-193125

お問い合わせ先

T 297-0051 千葉県茂原市鷺巣48 大本山鷺山寺
TEL 0475-22-2978 · FAX 0475-22-3038



寺院の歴史



北海道の開拓が本格的であった明治時代中期、香川県國祐寺の檀信徒の開拓民がきっかけとなり創立された寺院が数ヶ寺ある。

今回は「妹背牛町 本尊寺」と「留寿都村 本國寺」をご紹介致します。

本尊寺

妹背牛町

妹背牛町は空知管内雨竜郡に属し、道内全体では中央西部に位置している。町名妹背牛はアイヌ語に由来し、モセウシイ「イラクサの多いところ」の意味がある。その大部分は山地丘陵が無く、全くの平坦地で農耕稻作が有名である。

開拓

香川県國祐寺の檀信徒の中に北海道へ移住するものが多数あった。開拓にて蓄えができたら国に帰ろうと思案する者も多かつたが、思う様にいかず、やむなく北海道の未開地を切り開き畑にしたり、アイヌ民族に土地の風土を聞き開拓に至つた。

本尊寺の成り立ち

本尊寺の創立は、明治二十五年頃より妹背牛・雨竜・北竜三町に入った香川県三豊郡豊浜町（現観音寺市）の雲風山國祐寺の檀信徒が夜な夜な集まつては本門八品の御題目を唱えていたが、何か物足りないと皆で相談して、明治三十年頃國祐寺に手紙を出し、開拓に入つた皆のため、妹背牛に住職を派遣してほしい旨を依頼する。



本堂



御会式

その依頼に応えて明治三十二年八月に、國祐寺第二十二世大平日済上人が、妹背牛駅の近く三沢商店付近に仮説教所を創設した。

しかし、大平日済上人は着任されず、高弟である大平日雄上人を入れ、明治三十五年十二月二十七日に國祐寺法務所として設置許可を受ける。その後、日雄上人が北海道各地に教線を拡張するに至つて、村上禎龍上人が入山。妹背牛には國祐寺の檀信徒が多く開拓に従事していたので、両上人はその檀信徒とともに法務所を建立し守り、昼間は住職といえども開拓に精を出し、夜は檀信徒の為に御講をして布教に励んでいたという。しかし、禎龍上人は若



柳町農場の開墾風景

くして遷化し、その後、渡辺勢龍上人、

次いで斎藤俊了上人

が入山した。大正九年七月には横内日孝

上人が担任となり、昭和五年に現在地を

総代田中幸助氏より土地敷地一町歩の寄

進があつたので、昭和六年六月に現本堂

仮庫裡を建立し、昭和十四年北海道庁長

官の認可を受け、寺号公称して本尊寺として正式に発足したのである。

その後、昭和二十七年栗山本門寺圓成日涌上人が兼務したが着任せず、同年八月に弟子の千葉繁明（日諦）上人が入山した。

着任当時は檀信徒が三十数戸しかなく、経済基盤がない中、寺族一丸となつて苦労しながら昼夜分かたぬ四十五年間の布教活動の結果、檀信徒数が百六十戸を数え、本尊寺の確固たる基盤を確立されたのである。

平成七年十月に千葉信龍上人（現住職）を次代に定め、同年十月二十九日に入退山式を挙行するに至つた。

平成九年に本尊寺開創百周年記念事業として、

老朽化した庫裡の新築をする。同年、開創百周年後、渡辺勢龍上人、記念慶讃法要を奉修した。

極寒の地での國祐寺檀信徒の未知の開拓は、現在の我々では到底考えも及ばない困難な環境、生活状況であった。その困難のおかげで、私たちの今的生活があるということを忘れてはならない。

本國寺

現代の留寿都

北海道の中心である人口約百九十万人の大都市札幌。そこから車で約一時間半、そして近年外国人観光客で賑わいを見せる後志ニセコ町より車で

約三十分の所に虻田郡留寿都村がある。

現在の留寿都村は、夏は遊園地やゴルフ、花火パフォーマンス、冬は三つの山を有するスキーフィールドとして道内屈指のリゾート地（ルスツリゾート）として知られており、年間の観光客数は百六十万人以上にも及び、中でも海外観光客が年々増えづけており、村自体も国際色豊かな地になりつつある。

留寿都村開拓余話

童話「赤い靴」は有名ですが、その舞台は留寿都村にあります。この歌の歌詞は、当時留寿都村



本國寺 本堂建設時

の開拓に入るため、泣く泣く幼い我子（岩崎きみ）をアメリカ人の宣教師に預けた母親（岩崎かよ）が、その後の我が子の事を察じた心情を歌つており、村には「赤い靴」ゆかりの地として母と子の銅像が建てられています。

本國寺の成り立ち

時に明治後期、虻田郡虻田村向洞爺（現洞爺湖町）の周辺に香川県國祐寺の檀信徒が開拓団として多数入植していた。そして國祐寺大平日済上人の弟子である高橋日堯上人が、その向洞爺附近にいた親戚を頼りにし、日済上人の法命の元、一寺建立の決意を持つて明治三十九年八月二十一日単身北海道へと渡つたのである。

日堯上人は書道にたけ、学校の先生もしておられ、その教え子達も多数北海道に渡つていた事もあり、渡道には前向きであつた。

渡道後は國祐寺檀徒の今井佐吉氏の元へ行き、



拓中の広大な土地の中で、寒さ厳しくなる北海道においては、檀信徒達も我身の事もままならない環境であり自分たちの生活で精一杯の状況であった。日堯上人は布教の傍ら畑を耕し農作業に従事して生活していく事となる。開拓当時の僧侶方は各々布教の傍らに農作業をするのが当たり前であり、自活するのが精一杯であったと記されている。

その後開拓も内陸方面へと進み、同年十二月隣町の真狩村知来別に仮道場を移す事となり、明治四十四年二月

境内地を拡張し同十七年二月御堂を新築し本國教会とした。更には同二十一年九月に寺号を公称し立正山本國寺となり、同二十三年納骨堂を建立、同三十年本堂の大修繕及び庫裡を建立し今のは基礎を創られた。

この頃には生活環境も整い現代に繋がつて行く事となる。後には昭和三十三年日心上人が退任し、西野日輝上人が就任。昭和四十一年に納骨堂を新築。同四十四年には日蓮大聖人聖誕七百五十年並びに開創六十年記念法要を執行し本堂を拡張。

九月二日に近隣の小屋を借り受けて仮道場とするが、「屋壁大小ノ穴多ク十一月ニ至ルヤ風ノ為座上ニ雪積ムコト」とあり、塚原三味堂を彷彿とさせる小屋であつたと思われる。

ここからお題目を唱え布教が始まつた。だが開拓中の広大な土地の中で、寒さ厳しくなる北海道においては、檀信徒達も我身の事もままならない環境であり自分たちの生活で精一杯の状況であった。日堯上人は布教の傍ら畑を耕し農作業に従事して生活していく事となる。開拓当時の僧侶方は各々布教の傍らに農作業をするのが当たり前であり、自活するのが精一杯であったと記されている。

こうして命懸けとも言える生活の中、布教を続け、大正五年に現在地留寿都村に法務所を移転する。昭和四年には日堯上人も老年の為身体の自由も困難となりつつあり、國祐寺に後継者の派遣を申し出た。その後、越後日心上人が國祐寺法務所に行く事となり、来道して留寿都村に就いたその時に、それを待つていたかの様に日堯上人は突然に遷化された。日心上人は因縁浅からぬ事と考えられ、就任後布教に邁進し、昭和十五年十月、同四十五年日蓮大聖人七百遠忌並びに開創七十年記念法要と教學講習会を開催し庫裡を増改築する。

同五十六年日輝上人が退任し千葉海佑上人が就任。平成四年には客殿と大広間を新築し翌年舗装外構工事及び本堂の屋根を修繕する等々。

立正山本國寺は開創百十二年となり、幾多の苦難、困難を檀信徒と共に信仰を持って乗り越え今日に至っている。



創立記念法要 稚児行列

大本山鷲山寺大本堂再建 10万人講の参加募集 特別寄付のご案内

大本山鷲山寺の大本堂再建には機縁がなければ巡り会えません。皆様の縁を題目石・屋根銅板・特別寄付で大本堂へと刻み込みましょう。



限定4,600枚

屋根銅板

サイズ:60cm×15cm

記念奉納金
1枚3,000円

大本堂屋根の銅板1枚1枚に
お名前と祈願項目を書き入れ
ます。

題目石

サイズ:10cm×4cm

記念奉納金
1枚1,000円

お題目・お名前を書き
入れ安置致します。

限定10本/240名

角柱 1名12万5千円

本堂内の柱1本に24名のお名前を彫り込みます。
1人1本等その他の人数で奉納をお考えの場合は、ご連絡
ください。柱・名前の場所は指定できません。

数に限りがございますので、先ず電話にてご連絡下さい。
その後、申込用紙をお送り致します。限定ですので、先着順にて受付致します。誠に勝手ながらお断りする場合・ご希望に添えない場合もありますのでご了承くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ先

〒297-0051 千葉県茂原市鷲巣48 大本山鷲山寺
TEL.0475-22-2978・FAX.0475-22-3038

新元号では、災害のない、
皆様が笑って毎日を過ごせる
様な時代になれるよう祈
願していきたいものであ
ります。

今年は三十年続いてきた
「平成」も改元されます。も
ともと改元とは、天皇即位
の時は勿論の事それ以外に
も天変地異・疫病流行等の
災害が続いた時にも行われ
ていて、改元によつて災い
を断ち切り、天下泰平・國
土安穏等の祈願をこめての
改元もされていました。

今年は三十年続いてきた
「平成」も改元されます。も
ともと改元とは、天皇即位
の時は勿論の事それ以外に
も天変地異・疫病流行等の
災害が続いた時にも行われ
ていて、改元によつて災い
を断ち切り、天下泰平・國
土安穏等の祈願をこめての
改元もされていました。

「私の住職日記」第6回

「夜明けの、ぼさつ」

苦小牧妙見寺住職 末澤 隆信

平成30年9月6日未明の北海道胆振東部地震。震源地では震度7、苦小牧では震度5強を記録し、直後に北海道全域が停電した。長く強い揺れに叩き起こされ、灯りをつけて寺内の破損個所を見回っているうちに、バーンと音がして全ての光が消えた。闇の中、動くこともできず夜明けを待った。本堂の窓から見えたのは信号が止まった暗い交差点。譲り合いながらそろそろと行き交う自動車のライトが非常事態を伝えていた。

親元を離れ、札幌で新聞配達をしながら予備校に行ってたる次男。地震後三週間経った頃、うちの奥さんが様子を見に行き、彼がいろんな話をするようになったと喜んで帰ってきた。話題はもっぱらあの地震が起きた午前三時七分、その時のこと。

…新聞販売所でチラシの準備をしていた時だったと…

…停電の暗闇の中、新聞を積んだトラックが到着するのをひたすら待ち続けたんだと…

…動かなくなってる自動ドア、腕力で無理矢理こじ開けて入ったと…

…エレベーターが止まったマンション、階段を上り下りして配つたんだと…。

信号も街灯もビルの灯りも消えた街に、夜明けを待たず新聞を配った人達がいた。地震発生直後、北海道の新聞社が自家電力で必死の印刷作業を行つて発行にこぎつけ、新聞人としての矜持を示したニュースは聞いていた。そしてそれを届ける人がいたからこそ。テレビが映らない中、いつもどおり届けられた新聞に人々はどんなに助けられたことだろう。

その日の朝、「やり遂げた」と一言、母親にメールを送つてきた我が子。無口な彼が表情豊かに話していたと聞いて良かった。ささやかだけど、世の中を動かすために懸命に働いている人達を知った日。

明けましておめでとうございます。本年も法華宗信報をよろしくお願ひいたします。

昨年中は、我々の想像を超える豪雨水害・地震等の災害が多く発生し、多くの方々が犠牲になられました。本年はそのようなことがない一年であることを編集部一同願つております。

編集後記